

地域で稼ぐための好循環とは

南山大学 石川良文

本日の講演内容

第1部 講演「地域経済の好循環とは？」

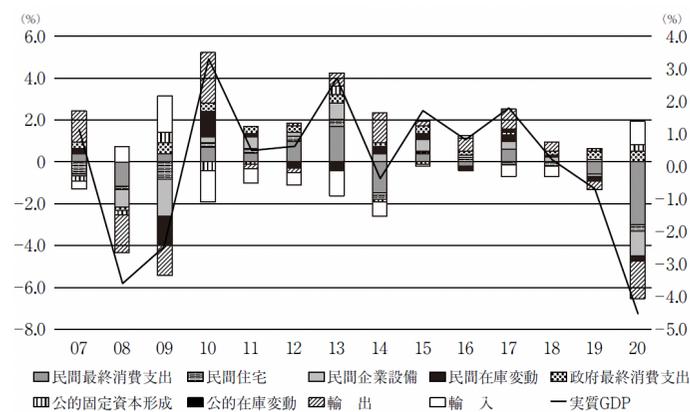
- (1) コロナ禍で落ち込んだ日本経済・地域経済-振り返り-
- (2) 豊川市社会経済の特徴
- (3) 地域経済循環と地域経済の活性化

第2部 事例紹介「瀬戸市中心市街地商店街の取組紹介」

- (1) 商店街マルシェと市民イベント
- (2) 既存店舗と新規店舗のネットワーク

コロナ禍で落ち込んだ日本経済・地域経済-振り返り-

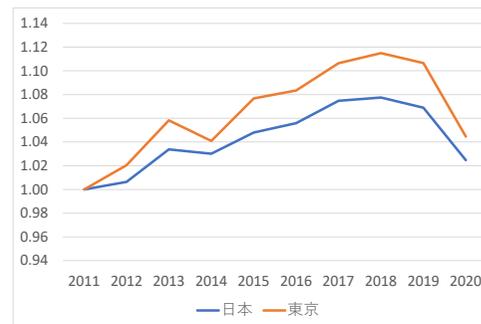
日本の実質GDP成長率の推移と支出項目別寄与率



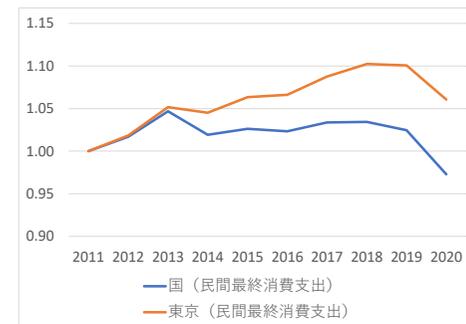
出所) 内閣府「国民経済計算」より作成

東京の経済一極集中と堅調な推移

GDPの推移 (全国・東京)



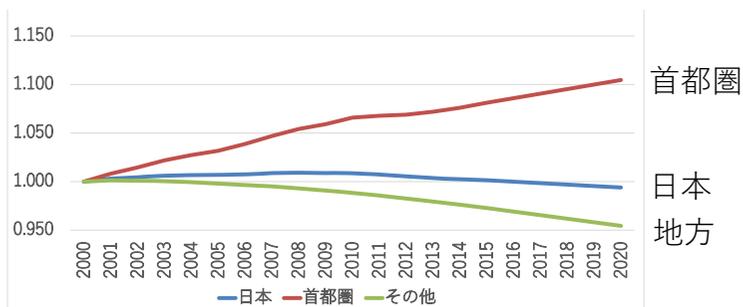
民間消費支出の推移 (全国・東京)



出所) 内閣府「国民経済計算」、東京都「都民経済計算年報」より作成

長く続く首都圏一極集中と地方の人口減少

- ・日本の人口は、20年間で1億2,693万人から1億2,615万人へ**80万人減少**
- ・首都圏の人口は、20年間で3,342万人から3,691万人へ**251万人増加**
- ・その他地方の人口は、20年間で9,351万人から8,923万人へ**428万人減少**

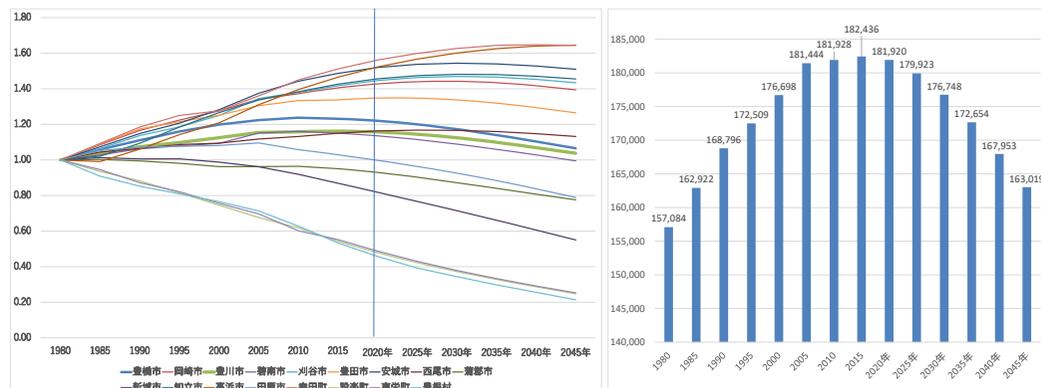


出所) 総務省「人口推計」より作成

豊川市社会経済の特徴

- ・豊川市は東三河の拠点として順調に人口増加を果たしてきたが、今後は緩やかに減少

人口減少に負けない強い経済の必要性



出所) 総務省「人口推計」、社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」より作成

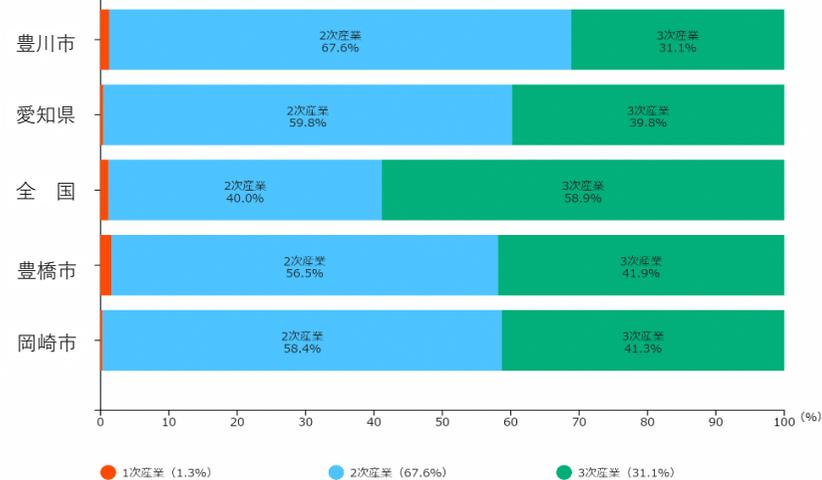
東三河の拠点として大きな経済を築いている豊川市

- ・人口規模、事業所数の割に従業者数が少ない
- ・市外からの通勤者数が多く、市内で得た所得を市外で消費している可能性(所得の市外への流出→市内での経済循環が働かない)

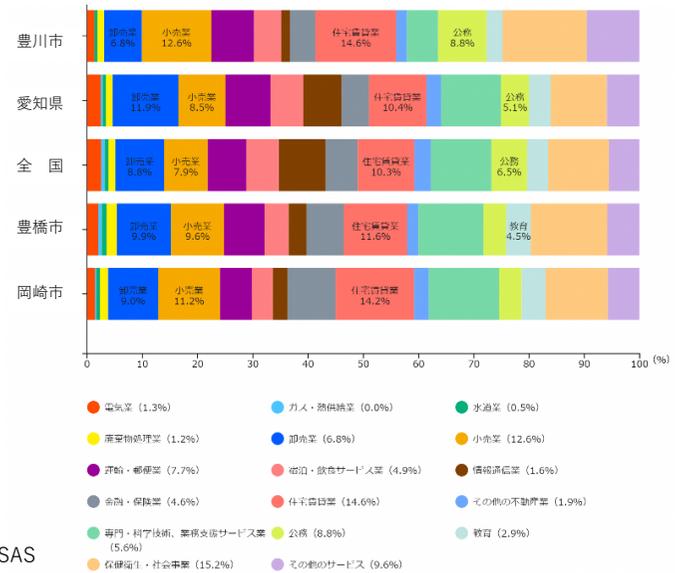
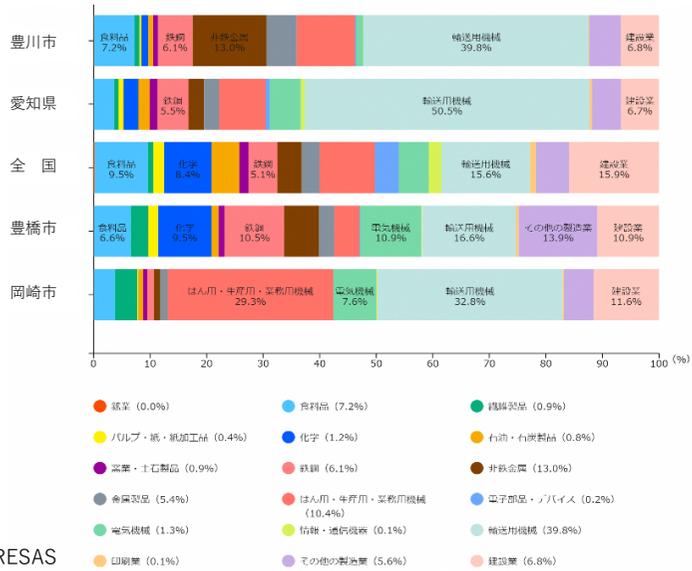
	豊川市	順位 (愛知県内)	順位 (全国)	豊橋市
人口(2020年)	184,661人	8位	148位	371,920人
企業数(2016年)	5,133社	8位	150位	11,440社
事業所数(2019年)	7,752事業所	7位	154位	16,651事業所
小売店舗(2016年)	1,412店	7位	145位	2,816店
従業者数(2014年)	85,026人	10位	144位	17,7161人
市外からの通勤者数	21,720人	15位	179位	27,312人

出典) 統計ダッシュボード (<https://dashboard.e-stat.go.jp/>)

生産額ベースで見た豊川市産業経済



出所) RESAS

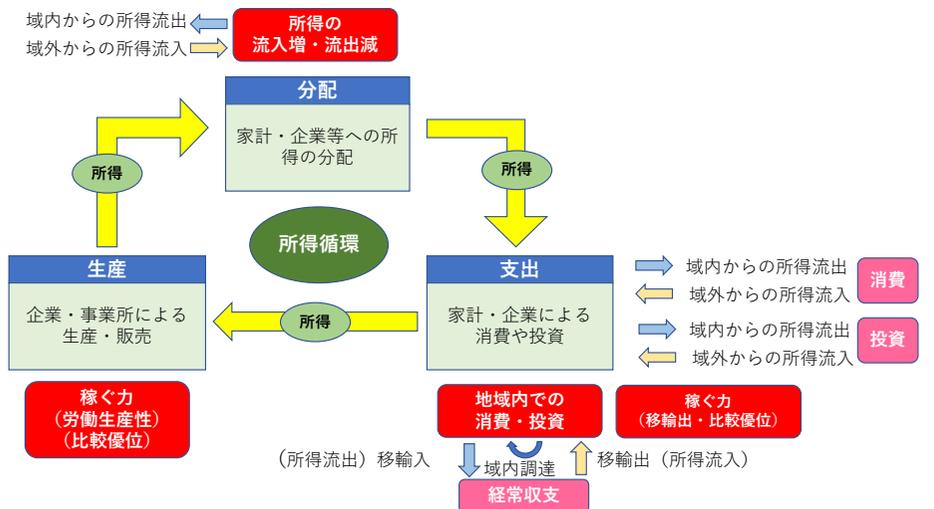


産業	特化係数(全国)	特化係数(愛知県)
31 輸送用機械器具製造業	7.05	1.69
23 非鉄金属製造業	4.06	4.09
26 生産用機械器具製造業	3.14	1.84
18 プラスチック製品製造業(別掲を除く)	2.87	1.55
63 協同組織金融業	2.49	1.98
27 業務用機械器具製造業	2.47	2.24
24 金属製品製造業	2.33	1.64
94 宗教	2.30	2.61
22 鉄鋼業	2.24	1.13
20 なめし革・同製品・毛皮製造業	2.18	3.34
04 水産養殖業	2.11	9.43
09 食料品製造業	1.96	2.30
32 その他の製造業	1.41	1.30
13 家具・装備品製造業	1.37	1.21
95 その他のサービス業	1.32	1.89
21 窯業・土石製品製造業	1.27	0.99
11 繊維工業	1.24	1.03
44 道路貨物運送業	1.23	1.12
60 その他の小売業	1.22	1.26
01 農業	1.22	2.80
78 洗濯・美容・美容・浴場業	1.22	1.35
89 自動車整備業	1.20	1.23
87 協同組合(他に分類されないもの)	1.20	1.61
74 技術サービス業(他に分類されないもの)	1.18	1.03
59 機械器具小売業	1.15	1.15
07 職別工事業(設備工事業を除く)	1.11	1.18
86 郵便局	1.10	1.37
80 娯楽業	1.09	1.15
77 持ち帰り・配達飲食サービス業	1.09	1.18
85 社会保険・社会福祉・介護事業	1.07	1.42
58 飲食料点小売業	1.03	1.28

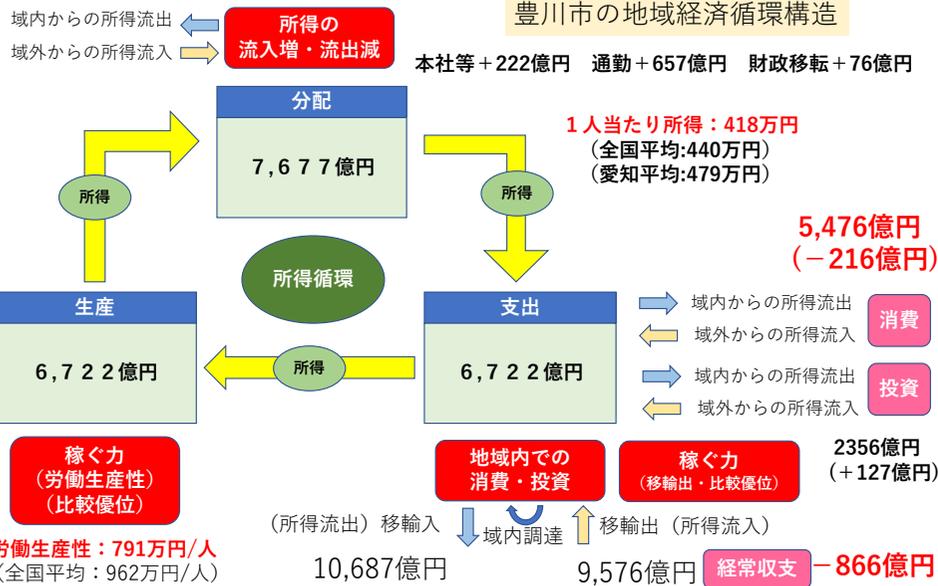
産業	特化係数(全国)	特化係数(愛知県)
19 ゴム製品製造業	0.01	0.01
64 貸金業、クレジットカード業等非現金信用	0.01	0.02
41 映像・音響・文字情報制作業	0.01	0.03
40 インターネット情報サービス業	0.04	0.10
02 林業	0.04	0.25
38 情報サービス業	0.05	0.06
85 倉庫商品取引業、商品先物取引業	0.06	0.11
42 鉄道業	0.06	0.06
51 繊維・衣服等卸売業	0.06	0.07
62 銀行業	0.08	0.12
86 増殖的金融業等	0.08	0.13
57 造船業	0.11	0.14
17 石油製品・石炭製品製造業	0.19	0.31
36 熱電業	0.19	0.21
73 広告業	0.20	0.26
81 学校教育	0.21	0.25
19 教育サービス業(他に分類されないもの)	0.23	0.46
90 機械等修理業(別掲を除く)	0.28	0.27
75 宿泊業	0.29	0.62
19 教育サービス業(他に分類されないもの)	0.29	0.46
84 保健衛生	0.30	0.35
15 印刷・出版業	0.33	0.38
33 電気業	0.35	0.31
16 化学工業	0.35	0.60
99 不動産賃貸業、管理業	0.36	0.45
85 その他の卸売業	0.37	0.27
30 情報通信機械器具製造業	0.37	0.48
72 専門サービス業(他に分類されないもの)	0.41	0.49
28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	0.42	1.29
92 保険業(保険媒介代理業、保険サービス)	0.46	0.81
52 医薬品製造業	0.46	0.53
82 その他の事業サービス業	0.49	0.54
93 政治・経済・文化団体	0.51	0.84
54 機械器具製造業	0.51	0.40
79 その他の非開業サービス業	0.51	0.53
41 情報サービス業(他に分類されないもの)	0.52	0.46
08 設備工事業	0.61	0.63
81 農産物小売業	0.62	0.80
47 建設業	0.67	0.58
83 医療業	0.68	0.87
14/V/A/P・紙・紙加工品製造業	0.70	0.73
70 輸送業	0.71	0.77
06 総合工事業	0.72	0.90
53 建設材料、建物、金属材料等卸売業	0.72	0.65
91 機械器具製造業(家具製造業)	0.75	0.53
48 不動産取引業	0.76	0.90
12 木質製品製造業(家具を除く)	0.77	0.68
57 繊維・衣服・身の回り品小売業	0.82	0.89
88 農産物処理業	0.83	1.06
84 多国籍小売業	0.85	0.76
82 その他の教育、学習支援業	0.86	0.82
29 電気機械器具製造業	0.87	0.45
36 飲食業	0.88	1.41
76 飲食店	0.93	0.90
25 はん用機械器具製造業	0.99	0.74

出所) 経済センサスより作成

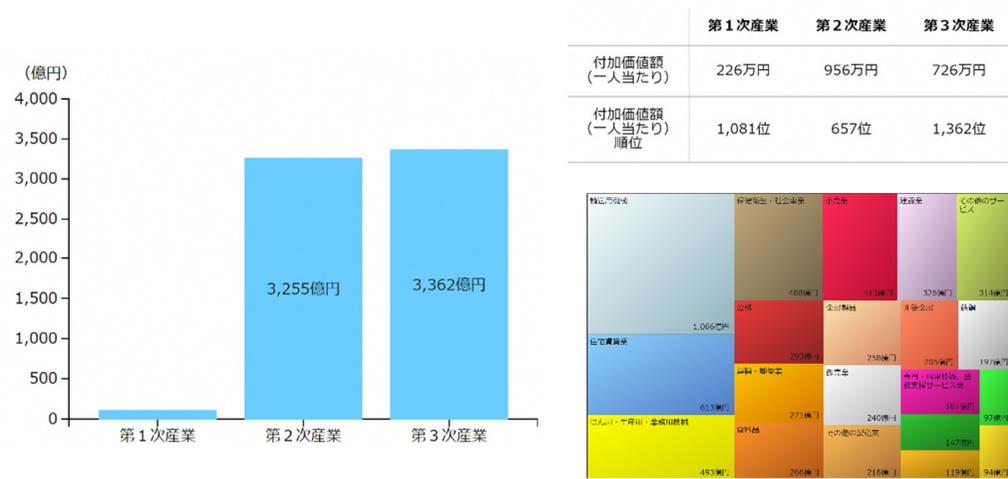
地域経済循環とは何か



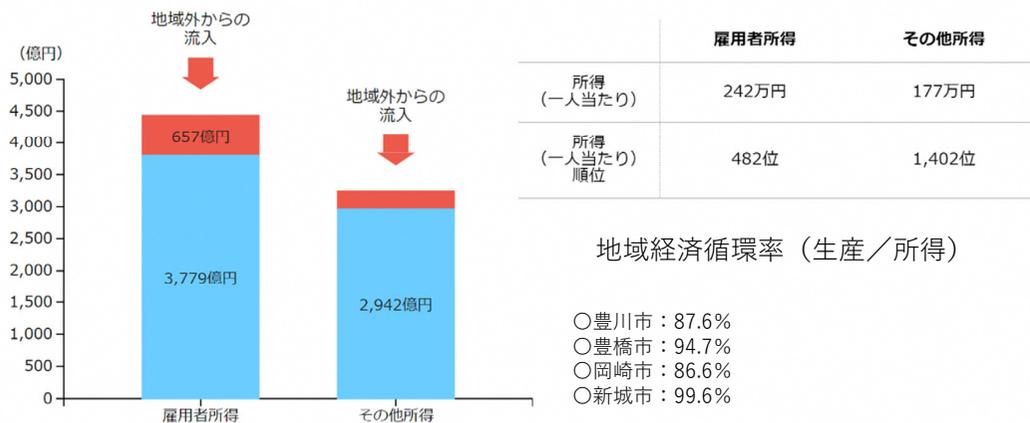
豊川市の地域経済循環構造



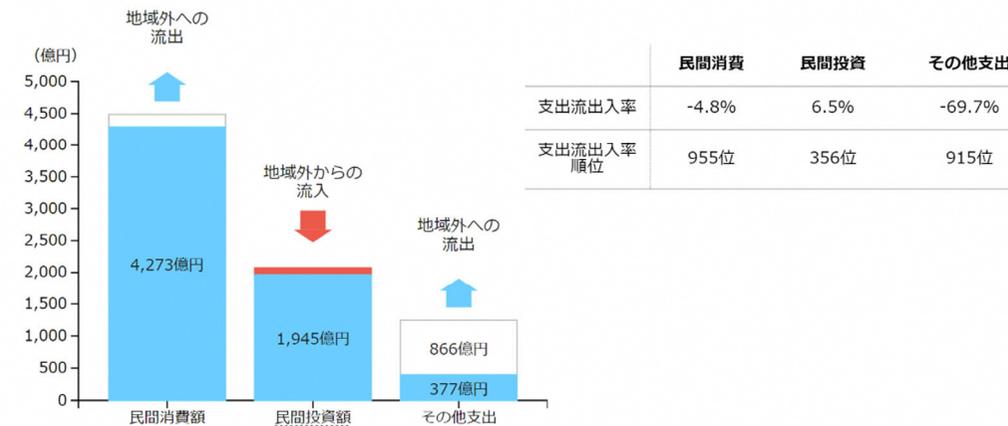
豊川市の稼ぐ力：生産（付加価値）



豊川市にもたらされた所得：分配（所得）



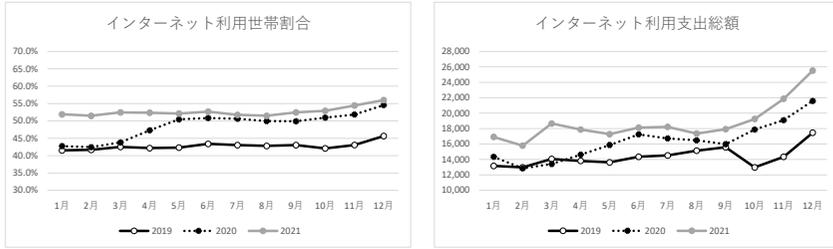
豊川市の最終需要：支出



商業における近年の波：E-コマースの台頭

○消費者向け電子商取引の進展

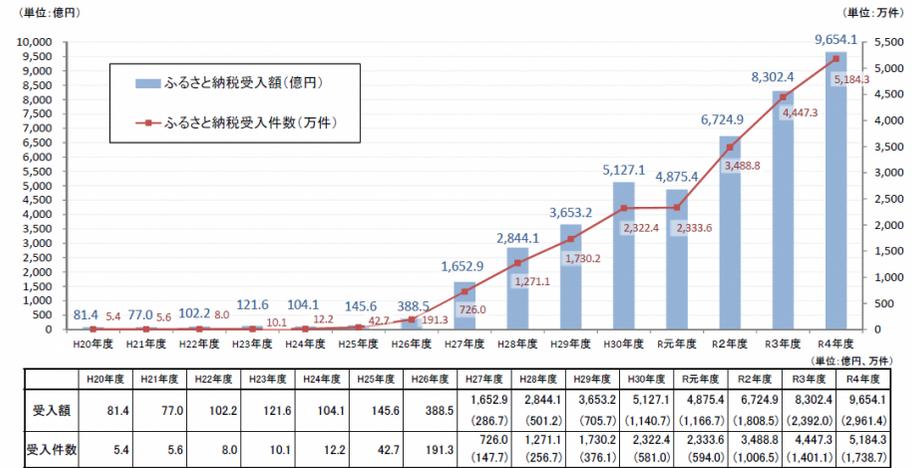
- ・2013年の11兆1660億円から2021年には2倍近くの20兆6950億円（経済産業省）
- ・コロナ禍における電子商取引の拡大（消費者の行動変容）
- ネットショッピング利用世帯：2019年11月43.1%から2020年同月51.8%で8.7%増加
- ネットショッピング支出額：2019年11月14,335円から2020年同月で19,090円



品目別ネットショッピング支出額の推移

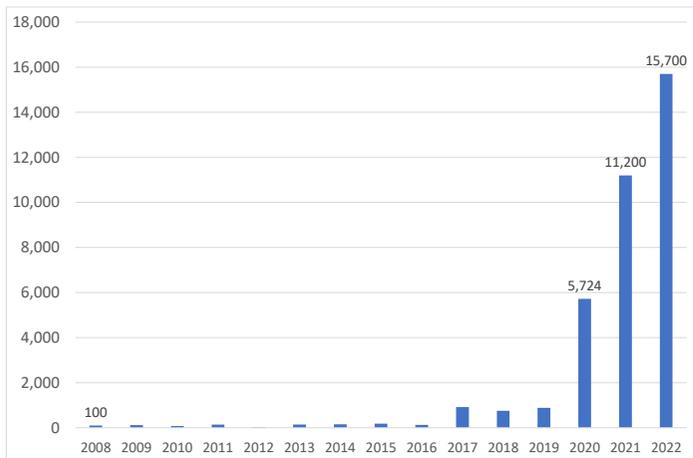
出所) 総務省「家計消費状況調査」より著者作成

ふるさと納税の受入額及び受入れ件数（全国計）



出所) 総務省資料

豊川市におけるふるさと納税額の推移

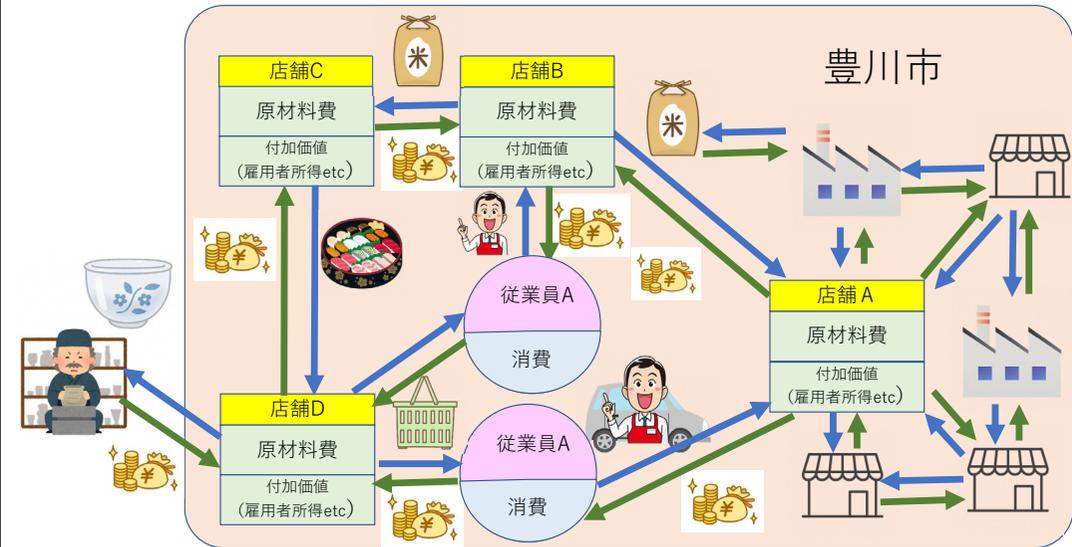


- <件数>
4141件 (1108位)
- <ふるさと納税寄付金額>
1億5,700万人 (907位)
- <返礼品>
・レギュレーターストープ
・美河フランク
・

- ◆参考
寄付額1位
宮崎県都城市
196億円 (100万件)
北海道紋別市
194億円 (129万件)
北海道根室市
176億円 (83万件)

出所) 豊川市オープンデータ

地域経済循環でどんどん潤い活性化するケース



地域経済の活力を高めるために

1. 稼ぐ力（生産面）

- ①地域産業の生産性 → 地域の労働生産性の向上
- ②地域産業の比較優位 → 他地域より得意な産業への特化
- ③核となる産業の生産性 → 中核産業の労働生産性の向上

2. 所得の循環（需要面）

- ①分配面での所得の流出入 → 生産・販売で稼いだ所得の流れ（通勤による流出など）
- ②消費面での所得の流出入 → 稼いだ所得による消費の流れ（買い物先、観光客の流入）
- ③投資面での所得の流出入 → 稼いだ所得による投資の流れ（設備投資など）
- ④経常収支での所得の流出入 → 域外からの原材料購入・域外への販売（移輸出 > 移輸入）

地域事業者はどうすればいいか？

稼ぐ力

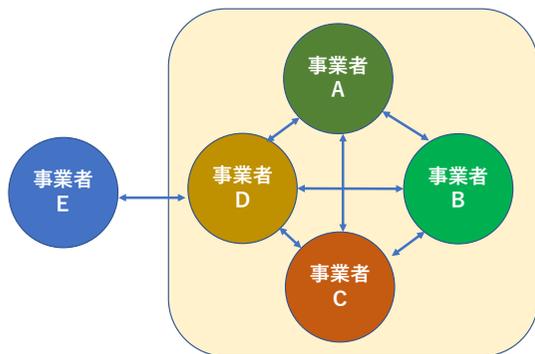
- ①生産性の向上（薄利多売からの脱却、デジタル化）
- ②他地域に負けない商品・サービス
- ③目玉となる商品・サービス
- ④e-コマースの利用

所得循環

- ①従業員の市内居住の促進
- ②ターゲットとしての豊川市民、観光客の獲得
- ③店舗改装・設備投資による魅力アップ・生産性向上
- ④市内製品・サービスの調達率向上（地産地消の促進）

ネットワーク

- ①市内ネットワークの強化（調達、情報、企画）
- ②市外ネットワークの形成（不得意分野の調達）（情報、企画）



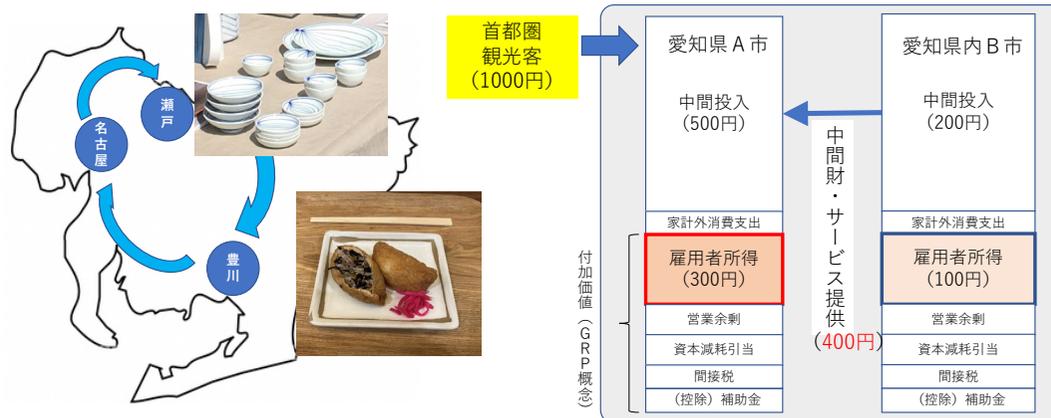
集積化

- ①〇〇のメッカ形成



豊川市と他地域のネットワークの構築

首都圏・海外の観光客獲得と連携・周遊の促進
（新しい関係性の構築で地域の強みを掛け合わせ）



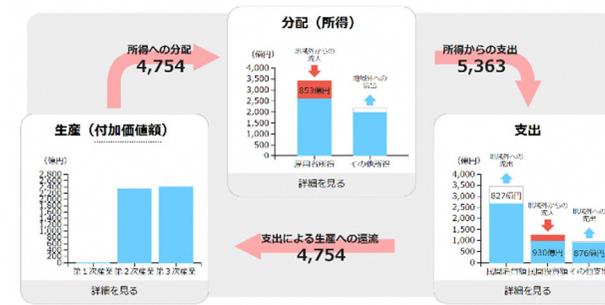
<ポイント>

- 稼ぐ力（供給力）と所得循環（需要力）をつける
- 市内事業者間のネットワーク力を高める
- 不得意分野は市外ネットワークで補う
- 他の地域には負けないメッカを形成する



- 他地域からの誘客を促進
- 自然、文化、歴史などレベルの高い地域資源を活用
- 足りないものは他地域を利用
- 他の地域にない特色の強化・創出
- 市内循環の仕組みづくり（人・金）

瀬戸市の地域経済循環図



	瀬戸市	順位 (愛知県内)	順位 (全国)
人口 (2020年)	127,792人	13位	217位
企業数 (2016年)	3,799社	11位	217位
事業所数 (2019年)	5,205事業所	13位	245位
小売店舗 (2016年)	786店	14位	277位
従業者数 (2014年)	50,564人	15位	247位
市外からの通勤者数	17,247人	20位	228位

出所) RESAS

瀬戸市中心市街地の衰退と商店街

○銀座通り商店街

- 1887年（明治20年）頃から深川神社の門前町として発展。
- 大正時代から昭和初期にかけて商店街の建物の多くが建てられた。
- 1964年（昭和39年）にはアーケード完成
- 1994年（平成6年）の商店数は75店舗、従業者数210人、年間販売額26億円
- 2014年（平成26年）には商店数20店舗まで減少

○末広町商店街

- 1897年（明治30年）頃から埋立、商家が集まり発展
- 1963年（昭和38年）には瀬戸初の大型スーパー「エビスヤ」立地
- 1963年（昭和38年）にはアーケード完成
- 1994年（平成6年）の商店数は78店舗、従業者数290人、年間販売額41億円
- 2014年（平成26年）には商店数41店舗まで減少

商店街におけるマルシェと市民イベント

○銀座なんでも生き生きマルシェ（銀座通り商店街）

- 毎月1回：第1日曜日開催 10時～15時
- 出店数：約40ブース
- コロナ禍では中止となっていたが2021年3月～再開

○千客万来 招き猫マルシェ（末広町商店街）

- 毎月2回：第2、第4日曜日
- 出店数：約20ブース
- 2022年3月～開始
- 「ナイトマルシェ」「子ども商店街」「ハロウィンマルシェ」など
- マルシェ出店者に既存店舗の棚貸して、マルシェの商品を個展で常時販売



○Artwalkホウボウ（銀座通り商店街、末広町商店街）

- 毎年1回：6月（1週間～2週間）
- アーケード街の店々に作品を展示しアートの楽しさを体感できる街なかお散歩アートイベント

中心市街地の復活の機運と近年の空き店舗活用

○銀座通り商店街

- ・2022年には約40店舗まで増加（空き店舗活用）
- ・2018年ゲストハウスからの新旧店舗ネットワーク形成
- ・お茶屋（1924年）・乾物屋（1927年）→セレクトショップ（2013年）
- ・陶芸体験（2020年）→自転車屋（2021年）→カフェ（2022年）など
- ・カフェ&ゲストハウス（2018年）、雑貨（2019年）など

○末広町商店街

- ・2022年には約50店舗まで増加（空き店舗活用）
- ・2017年電気屋空きビルを活用した共同アトリエ「タネリスタジオ」から始まる空き店舗再生
- ・喫茶店（1945年）・電器店（1957年）
- ・2020年頃～学生シェアハウス、バレエ教室、エステサロン、カフェなど
- ・2023年新しい拠点「瀬戸くらし研究所」開設（カフェ、飲食店、コワーキングスペースなど）
- ・2023年メイドイン瀬戸の土産屋による新しい地域経済循環

商店街活性化の中核を担う新たな拠点「瀬戸くらし研究所」

- ・2023年4月オープン（洋品店だった空き店舗を活用）
- ・2022年9月～クラウドファンディングで目標金額650万円達成
- ・観光で訪れた方が気軽に寄り、まちの情報を集められる拠点
- ・陶芸・アート・飲食などの“ツクリテ”の方が発表でき楽しめる交流拠点



商店街と市内製品をつなぐ新たな土産物拠点「ヒトツチ」

- ・2023年4月オープン（瀬戸くらし研究所の隣に空き店舗を活用し併設）
- ・瀬戸焼の他、焼き菓子、アクセサリ、知育玩具など多様な瀬戸産を販売
- ・瀬戸には陶磁器の他、様々なツクリテ文化があり多種多様であることをPR
- ・観光客だけでなく、市内居住者が手土産を購入できる場



商店街と人をつなぐ新たな若者居住・交流拠点「松千代館」

- ・2022年4月利用開始（大正4年創業の元旅館を活用し併設）
- ・建物オーナー、建築家、大学教員らによる再生の会によるプロジェクト
- ・風情、情緒を最大残したリノベーション
- ・ギャラリースペース、フリースペース、学生シェアハウスとして利用

